ICICニュース

Vol.17 No.4 通巻64号 2013年2月28日発行

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 神保町センタービル5階
Tel.03-3262-1486 Fax.03-3234-0872 E-mail edit@chizujoho.jpn.org

International Cartographic Information Center NEWS　編集・発行　一般財団法人地図情報センター

巡検・セミナー開催のご案内

■ 春の巡検は江戸川橋周辺（4月6日（土）開催）

テーマ：「江戸川橋、関口教会界隈を巡る」

2013年度第1回の巡検は文京区・豊島区の境界、江戸川公園、関口教会周辺を巡るコースを予定しております。午前10時頃、桜が見ごろな「江戸川公園」を出発し、「カトリック関口教会」や「野間記念館」、「永青文庫」など（いずれも予定）比較的短いルートです。

参加費は1,500円（含入館料、予定）。お申し込みは3月25日頃まで。集合場所等の資料をお送りします。

展覧会情報

成田へ―江戸の旅・近代の旅―

会　場　鉄道歴史展示室（旧新橋停車場駅舎）
電　話　03-3572-1872
期　間　～3月17日

特別展 天下の城下町　大坂と江戸

会　場　大阪歴史博物館
電　話　06-6946-5728
期　間　～3月25日

城絵図と町絵図

会　場　千秋文庫
電　話　03-3261-0075
期　間　～4月20日

特別展「ツイン・タイム・トラベル　イザベラ・バードの旅の世界 写真展」

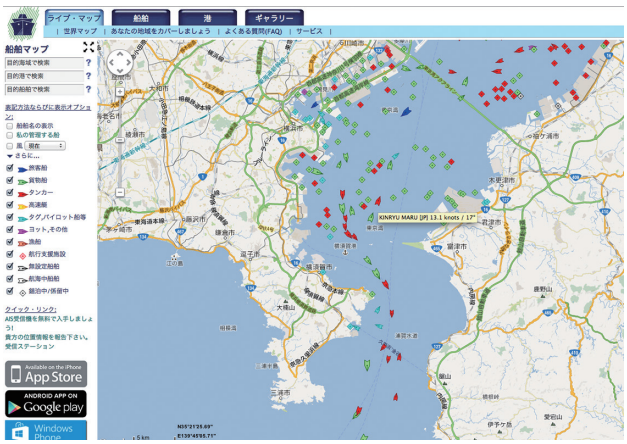
会　場　駒場博物館
電　話　03-5454-6139
期　間　3月16日～6月30日

mini地図NEWS

船舶のリアルタイム情報を見る「ライブ船舶マップ」

船舶の現在位置をリアルタイムに把握できる「ライブ船舶マップ」（http://www.marinetraffic.com/ais/jp/default.aspx）をご紹介する。

このサービスは300トン以上の国際航海をする船舶などに搭載が義務づけられているAIS（自動船舶識別装置/Automatic Identification System）から送られてくる船名や位置、針路などの情報をGoogleマップ上に表示するもので、世界のあらゆる場所をどんな船が行き交っているのかを見ることが可能となる。



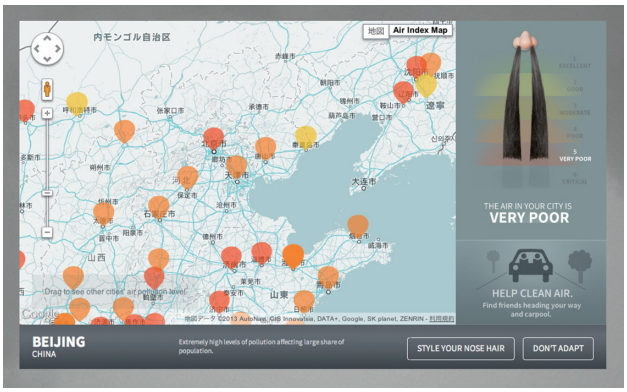
東京湾周辺。世界有数の海上混雑地域が実感できます。

空気汚染度を鼻毛で表すマップ

アジアの空気の汚染度を鼻毛の長さで表示させるマップが登場した。その名は「Clean Air Asia」。またの名を「アジア鼻毛マップ」（http://cleanairasia.org/hairynose/map#）である。

「アジア鼻毛マップ」は各国各都市の空気の汚染度をカラーと鼻毛の長さで表したものだ。鼻毛が長ければ長いほど空気が悪いということ。そして、地図上のグリーンが最も空気の汚染度が低く、色が濃い赤になればなるほど汚染度は上がっていくようだ。

悪名高い中国の大気汚染もこれだけ鼻毛が長ければ大丈夫（なわけはない）。そういえば小松左京の短編に未来の都市住民の鼻毛が伸びる話がありましたね。



鼻毛マップで北京を表示したところ。右上の鼻毛インジケータが盛大に伸びている。」

地　図　絡　み

第52回 地方配属将校達の素人作品にはじまる、日本最初の各平野域地形図（迅速測図）群

帝京大学理事　井口悦男

日本の基本地形図の作成は、明治10年代後半、関東平野での2万分1迅速測図250面弱から始められたこと、よく知られている。この測量原板に記された測手名から、作図専門家に限らず、素人の後世有名将軍も一員として参加し、総動員態勢であったと分かる。

その後の全国展開は、明治19年関東迅速測図西端「小田原」から西へ、関東に続け京阪神で試作された「准正式」図域に向け、ようやく決定版にあたる「正式図」が東海道筋周辺でほぼ一気に作図される。その一方、全国各地の陸軍地方施設所在大都市周辺平野域にも、同様に近い2万分1迅速測図群が登場する。この状況は、その後軍施設増設に合わせ、隣接既設聯隊からの行軍路を伴ない、新設地周辺演習候補地平野図等も成立する。これらの図は、いずれも該当地域の各聯隊配属将校、下士官たちによった。

中央地図作成機関（後の「陸地測量部」）の全国短期完成に程遠い予算配当に対する便法が、地方軍予算で肩代わりさせることで、正式図の広がりが遅れることを補った。あたかも、日本の全国鉄道網の早期達成に対する、国家予算不足を、民間出資の広域大私鉄会社創設で一時しのぎを実施したことと軌を一にする。大出資を要する、両者に当時貧乏国の知恵となろう。

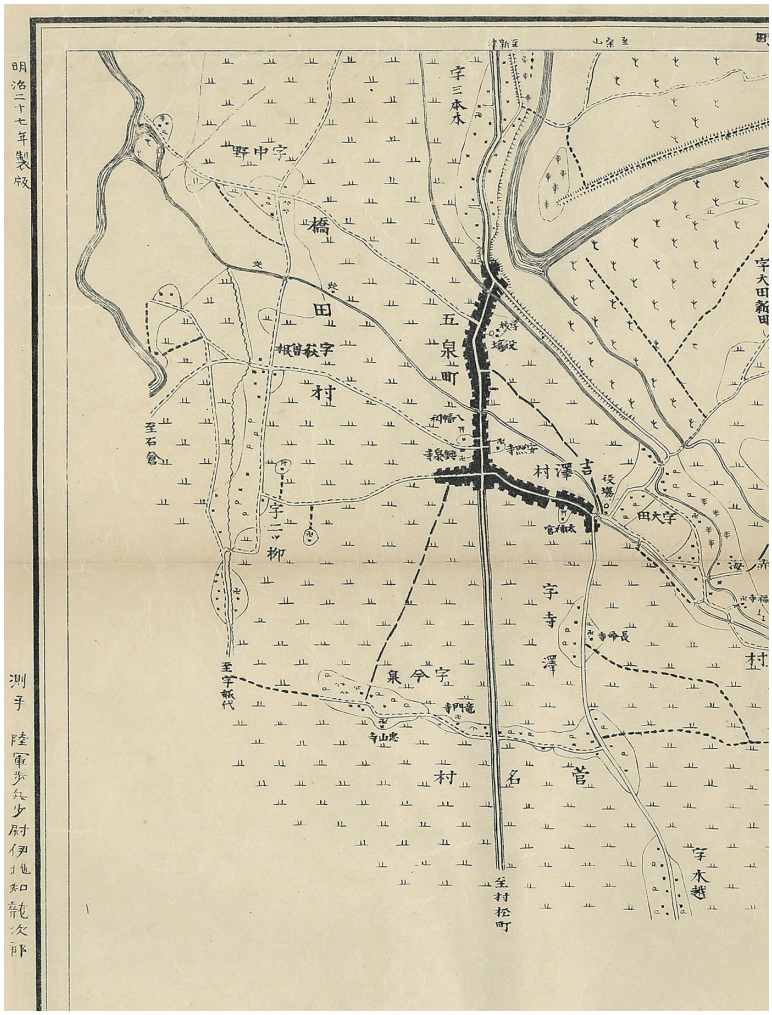
こうして、北は北海道の旭川駐在聯隊の上川盆地図から、南は鹿児島聯隊の薩摩半島図に至るまで、明治20年代前後から同30年代を中心に、大正初年にかけ、それぞれで20～10年ほど遅れて正式図域に組込まれるまでの間、図域の拡大と再版以降改訂版も出現させる。

この間、軍所在都市の代表的書店が委託製作、販売した場合も見られる。通常は、軍の*酒保（しゅほ）扱いであった。これら図は軍用に限定されず、地域一般の利用も少ないが広がっていたと思える。袋や帯封に収められた各近傍図毎の分布目録は付されていたが、正式図に見られた全国図分布目録は、各地方版であったためか、その存在を聞かない。知る限りで、金沢9師団域図と、私製全国目録（不完全）に止まる。

図描に関し、当初成立の明治20年代図で、江戸期以来伝統の細筆書き絵図方式が一般的で、注記文字は当然習字体で、新しく導入された等高線の描線幅一定しない形であった。明治30年代に入ると、ようやく欧風ペン書きに移行し、線は極細に整えられ、地形描写も手慣れ、注記は現行の明朝体、ゴシック体風手書きに統一される。

なお、正式図到達以前、地方版迅速測図が大演習域の演習用図として、そのままか、中央部局による図描向上を加え、地方、中央両者調整図として使用される。また、印刷用紙は、当時の正式図使用和紙と同等品による。

何より注目される事実は、素人軍人による簡測図と言う限界をもつが、学習成果を踏まえ、明治末から大正初期成立図の中には、緻密性を高め、正式図描仮製版図と同様に達するものも出現する。経年図の手ざわり、そして印刷墨色は、風格を称える。（13.02.15）



2万迅速小型変形図「五泉町」明治27年製版 測手歩少尉伊地知龍次郎（歩16、新発田、部分を約55%に縮小）。
五泉は磐越西線新津（信越線分岐点）から南約10ｋｍの蒲原平野阿賀野川左岸。最近まで村松への蒲原鉄道分岐点。図描丁寧。名古屋南方に続くローマ字入り図15面の明治24年版が2師作成。その後越後全域に100面以上、明治35年迄。明治末5万図も加わり数を増す。

＊酒保：旧日本軍の基地・施設内や艦船内に設けられていた売店に類するもの。